

読書活動参考資料3 ブックトーク

「聞いて楽しむ読書」から、自分で「読んで楽しむ読書」へと誘う 「ブックトーク」

○「ブックトーク (book talk)」は、「ある一つテーマ」に沿って選んだ数冊の本を紹介する読書活動で、読書への動機づけに効果的な手法として、学校や図書館などで取り込まれるようになってきました。

ブックトークでは、あらかじめ、テーマを決めて、それに関連した数冊の本を選び、それぞれの本につながりを持たせながら、子どもたちに、順序よく紹介していきます。子どもたちは、本を紹介するおはなしを聞くことで、読んでみたいという気持ちを起こさせ、また、幅広い分野の本に対する興味や関心を引き出すことができます。

○ブックトークの方法

(1) テーマの設定方法

テーマは、季節や年中行事、人物などのほか、そのときのタイムリーな話題、子どもに身近な動物や暮らしの中の出来事などで設定します。学校からの依頼の場合は、教科と関連したテーマを依頼されることもあります。

(2) 本の選び方

選ぶ本は、大勢の子どもたちにすすめる価値があり、自分もおもしろいと思う本を選ぶことを心がけたいものです。また、普段あまり読まれていないが、ぜひ読んでもらいたいという本も入れるとよいでしょう。

取り上げる本の冊数は対象や持ち時間によりますが、一つのテーマに、物語の本、伝記、エッセイ、詩、知識の本など、様々な種類の本を選び、内容もやさしいものから難しいものまで幅をもたせるようにして、一人ひとりの子どもの興味や読書力に応じた、本の紹介ができるようにしたいものです。

(4) 本を紹介する方法

紹介する本の特徴をよくつかんで、それぞれに合った方法を工夫します。どの順番で紹介すると流れがよいか、本から本へ、どのような「つながりの言葉」を入れてつないでいくのか、どの順番にするとテーマにそった本の紹介できるかについても考えてみましょう。シナリオを作成してみるのもよい方法です。

(5) 子どもたちに本を手渡す方法

ブックトークが終わったら、子どもたちが自分で本をさがせるように、その日取り上げた本のリストを渡しておきましょう。また、子どもたちが実際に、紹介した本を手にとって読むことができるように、自由読書の時間を設けておきましょう。子どもたちを、自分で読んで楽しむ読書へと導いていくために心がけたいことです。

【参考文献】

- 1) 『ブックトーク—理論と実践—』全国S L Aブックトーク委員会，1990年
- 2) 『やってみようブックトーク』親子読書地域文庫全国協議会，2007年
- 3) 『児童サービス論』（J L A図書館情報学テキストシリーズⅡ）堀川照代／著，日本図書館協会，2009年